

昭和 27 年、斜面の農地を造成し団地の建築が始まりました。その頃は木造平屋建ての長屋が一般的でしたが、蟻ヶ崎団地は鉄筋コンクリート 3 階建てで近代的なモデル公営住宅として脚光をあびました。当時の新聞に「浴室、水洗便所、ガスコンロ付きの台所、四畳半と六畳二間、南面に洗濯場、三階を突き抜けるゴミ捨て装置云々」と写真入りで紹介されました。29年にはブロックモルタル作りで 157 戸。集会場や遊園地も備えていました。



それから 40 年以上が経ち建物は老朽化し狭隘にもなつてきました。そのため、平成 5 年から 10 年にかけて建て替えられました。耐震構造の鉄筋コンクリート 4 階～6 階建ての建物は計画の段階から高齢者福祉に重点を置く団地として構想されました。5 階以上の棟にはエレベーターが設置され、室内の段差はなく、階段、トイレ、風呂には手すりが取り付けられています。間配慮がされています。間取りは 3DKY (6 畳、8 畳の和室、6 畳の洋間、ダイニングキッチン、浴室と 2DKY) です。団地のいたるところに植栽され、特に桜の木は数えきれず、北側の八重桜の美しさはすばらしいです。

昭和 27 年、斜面の農地を造成し団地の建築が始まりました。その頃は木造平屋建ての長屋が一般的でしたが、蟻ヶ崎団地は鉄筋コンクリート 3 階建てで近代的なモデル公営住宅として脚光をあびました。当時の新聞に「浴室、水洗便所、ガスコンロ付きの台所、四畳半と六畳二間、南面に洗濯場、三階を突き抜けるゴミ捨て装置云々」と写真入りで紹介されました。29年にはブロックモルタル作りで 157 戸。集会場や遊園地も備えていました。

昭和 27 年、斜面の農地を造成し団地の建築が始まりました。その頃は木造平屋建ての長屋が一般的でしたが、蟻ヶ崎団地は鉄筋コンクリート 3 階建てで近代的なモデル公営住宅として脚光をあびました。当時の新聞に「浴室、水洗便所、ガスコンロ付きの台所、四畳半と六畳二間、南面に洗濯場、三階を突き抜けるゴミ捨て装置云々」と写真入りで紹介されました。29年にはブロックモルタル作りで 157 戸。集会場や遊園地も備えていました。

それから 40 年以上が経ち建物は老朽化し狭隘にもなつてきました。そのため、平成 5 年から 10 年にかけて建て替えられました。耐震構造の鉄筋コンクリート 4 階～6 階建ての建物は計画の段階から高齢者福祉に重点を置く団地として構想されました。5 階以上の棟にはエレベーターが設置され、室内の段差はなく、階段、トイレ、風呂には手すりが取り付けられています。間配慮がされています。間取りは 3DKY (6 畳、8 畳の和室、6 畳の洋間、ダイニングキッチン、浴室と 2DKY) です。団地のいたるところに植栽され、特に桜の木は数えきれず、北側の八重桜の美しさはすばらしいです。

昭和 27 年、斜面の農地を造成し団地の建築が始まりました。その頃は木造平屋建ての長屋が一般的でしたが、蟻ヶ崎団地は鉄筋コンクリート 3 階建てで近代的なモデル公営住宅として脚光をあびました。当時の新聞に「浴室、水洗便所、ガスコンロ付きの台所、四畳半と六畳二間、南面に洗濯場、三階を突き抜けるゴミ捨て装置云々」と写真入りで紹介されました。29年にはブロックモルタル作りで 157 戸。集会場や遊園地も備えていました。

高齢者福祉団地

深志高校のすぐ南に近代的な高層住宅群が見えます。ここが県営住宅蟻ヶ崎団地、即ち深志ヶ丘町会です。

建設替えを機に町会発足



平成 27 年 3 月 1 日現在
総世帯数 3,523
人口 7,690
総人男 3,675
総人女 4,015

中庭には児童遊園地も設けられています。

文化講演会

親睦行事の後はカラオケで
平成 14 年に蟻ヶ崎ディサイ
ビスセンターが完成し町会に
加わりました。総
世帯数 1
6 戸
名前も新
たに蟻ヶ
崎深志ヶ
丘町会が
発足しま
した。



重文開智学校 校舎を語る

2 月 27 日、講師

に松本城
門員で田
町町会長
の後藤芳
孝さんを
迎え、「重
文開智と
明治の木造校舎」と題して講
演会を行いました。



松本が誇る擬洋風

文化講演会

開智学校の建築の特色は建物の真中に八角の塔がそろり立ち、正面には唐破風の屋根の下にベランダが設けられた車寄せが張出しているところです。さらにベランダには龍の飾り物をつけ、唐破風の屋

根にエンジエル風の彫刻が付けてられています。

文明開化の時代、大工の中には西洋の手法を取り入れ日本小学として開校しました。設計に際し、棟梁の立石清重は東京や横浜を訪れ、当時の大蔵省や開成学校など先進的な建物を参考にしたようです。

開智学校は地元から多額な寄付金を集め明治 9 年女鳥羽川畔に建設、筑摩県の第一番

建築を行った。これが擬洋風（洋風になぞらえたの意）建築と言われるもので各地に学校や役所として建てられました。市内は山辺が現存し、岡田・中山・波田などにありました。県内では中込学校も有名です。

擬洋風の特色や各地にあつた明治期の建物について詳しく述べられた後、「和風の建築に洋風を取り入れるという冒険と工夫を果敢におこなつた地元の大工の心意気を感じとりたい」と結ばれました。

平成21年6月から地区の民生委員2人が「こんにちは赤ちゃん」事業として自宅を訪問してファーストスプーンのプレゼントを渡しています。この時、お母さんをひろばに誘います。

ひろばに来るお母さんは転勤で松本生活は初めてという方が多く、遠くはベルギーから、鹿児島、京都、横浜、名古屋など全国各地から集まっています。新しい土地での子育ての大変さもありますが、皆さん楽しい話題を提供してくれます。

「松本の寒さにびっくりした」「果物や野菜が美味しい」「雪を初めてみた」「友達は涼しい松本の夏には来てくれるが、寒い冬は敬遠されて寂しい」など松本の発見を楽しく語ってくれます。お母さん同士が子どもを通して友達になり、家庭と地域を結ぶ輪が広まっています。

「若い方から高齢者まで対応できる料理で良く考えられていますね」と感想を述べられました。

親子で楽しい出会いのひろば



毎月、第3火曜日10時から城北公民館で、のびのびひろばが開かれて、お母さんやおばあちゃんが小さい子どもを連れて遊びに来ます。城北地区は毎年50名程の赤ちゃんが誕生しています。

ひろばでは季節にあわせてベビー・マッサージ、歯の検診、夏祭り、ミニ運動会、焼き芋会、クリスマス会など行います。毎回地区内外から20組40名ほどが参加しています。2月は、手型を押しておひなさまを作りました。「子どもの成長がわかる」ととても好評でした。食生活改善委員会の方が提供してくれるおやつも楽しめです。

3月13日に市農政課、JA松本ハイランドと松本大学観光ホスピタリティ学科8人を講師に「信州まつもと鍋」の講習会がありました。

松本市は毎月19日を家族と一緒に夕食を食べる「家族団らんの日」と決めています。信州・まつもと鍋はH26年秋に始まり、市・JA・大学が一体となって松本一本ねぎや長芋などの地産食材を使った冬季限定の鍋料理です。



松本の新料理

【信州・まつもと鍋】

いちごの風



大銀杏
最後の雄姿



附属小 6年生を送る会



開智小 6年生を送る会



旭町小 6年生を送る会



喫茶なごみ



深志高校

軽スポーツ大会順位

子どもの部

1位	岡村	和成さん
2位	竹内	睦さん
3位	荒井	睦来さん

大人の部

1位	牛山	直子さん
2位	大岩	禮子さん
3位	牛山	貴史さん